

Contents

10月はPSA(前立腺がん)検診の受診月です／① よかドック申込書兼問診票等記載不備のご留意について／② 第73回日本医学検査学会の活動報告／③ 細菌検査統計報告、ちょっとひと言／④

PSA(前立腺がん)検診のご案内



10月はPSA(前立腺がん)検診の受診月です

- 対象者**：福岡市民の方(男性、年度内55歳以上)で職域等で受診する機会のない方
- 受診者負担金**：1,000円
※下記の方は、負担金が免除(無料)になります。
①満70歳以上の方 ②市民税非課税世帯の方
③生活保護受給世帯の方 等
- 依頼方法**：当検査センター依頼書のフリー欄に項目コード「201」とご記入ください(よかドック申込書兼問診表は[201]にチェックを入れてください)。また、性別、年齢(生年月日でも可)のご記入も併せてお願い致します。

登録方法

PSA(前立腺がん)検診実施医療機関の事前登録が必要となります。

詳細につきましては、福岡市医師会医務課
TEL 852-1504 にお問い合わせのうえ登録をよろしくお願い致します。

登録は申込書1枚でOK!



よかドック申込書兼問診票等記載不備 のご留意について

The form includes the following sections and circled items:

- 問診 (Questionnaire):**
 - 12 就寝前の2時間以内に夕食をとることが週に3回以上ありますか (Circled in green)
 - 16 睡眠で体量が十分とれていますか (Circled in green)
 - 5 現在、たばこを習慣的に吸っていますか (Circled in green)
- 保険者番号:** 4050 (Circled in green)
- 被保険者番号:** (Circled in green)

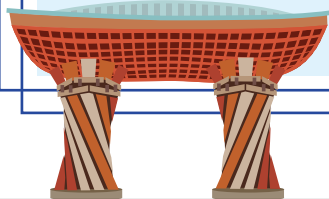
保険者番号【4050●●】と被保険者番号を同一数字で記載されることがあります。
※異なる数字となります。

※主な記入漏れおよび記入不備がある箇所は上記 (Circled in green) のとおりとなります。

生活習慣病予防健診・よかドック30・集合契約(市町村国保・県医国保・歯科医師国保・薬剤師国保・健保組合等・後期高齢者医療広域連合)においてもご留意ください。

※上記箇所等以外に不備がある場合でも検査結果経年表の遅延に繋がりますことをご了承ください。

第73回日本医学検査学会 (活動報告)



検査2課 星紫織

2024年5月11日、12日に石川県金沢市で開催された第73回日本医学検査学会への参加報告です。シンポジウム5【臨床微生物部門】多角的な視点で考える微生物検査の標準化—標準化に向けた展望と課題—にシンポジストとして参加しました。微生物検査部門においても自動分析装置による測定が一般的となりましたが、まだまだ用手的な作業も多く、標準化が進んでいないのが現状です。そこで本シンポジウムではさまざまな立場と職種の見点から標準化に向けてどのような課題が存在しているのか、医師は何を望んでいるのかという点を明確にし、参加者が微生物検査の標準化について考える機会とするという内容でした。

私からは『検査センターの立場から考える標準化の必要性と課題』というタイトルで発表させていただきました。検査センターと院内検査室との相違点や“最低限”の報告基準が明確になっていないという問題点を課題としました。また検査センターでも院内検査室でも「診療に役立つ検査結果を報告する」という目的は同じであり、同様の質の検査を行うためには、標準化ガイドラインは必要です。そのためにも、まずは検査に対する“意識の標準化”が必要であるという考えを述べました。【いつ、だれでも、どこでも質の良い微生物検査を行い臨床に報告する】ということを考えるにあたり、やはり技師一人一人の“検査に対する意識”が大事です。Diagnostic Stewardship(DS)～適切な検体管理をし、適切な検査結果を報告することで診療を支援する～という観点から考えても、検査手順の標準化ガイドラインというのは今後DSを継続して行うためにも必要なものであると主張しました。

他の演者(先生)の発表では、「高いレベルでの標準化にはスペシャリストが必要」という話がありとても印象的でした。標準化とスペシャリストは対立概念でなく、むしろ高いレベルでの標準化にはスペシャリストが必要とのことです。今後も積極的に学会や研修会に参加し、新しい知見を得ることでスペシャリストとして成長し、会員施設の先生方が適切な診療を行えるよう、最適な検査結果を報告していきたいと考えます。

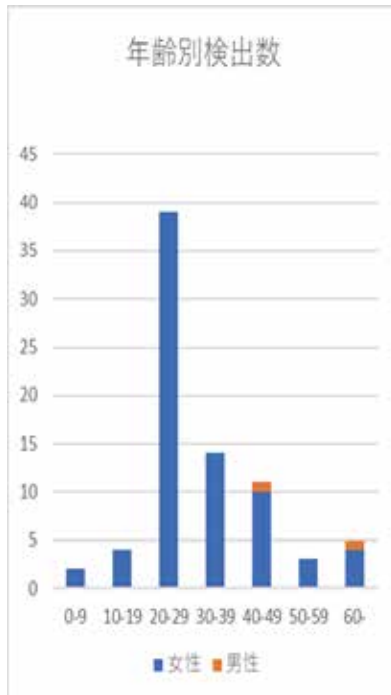
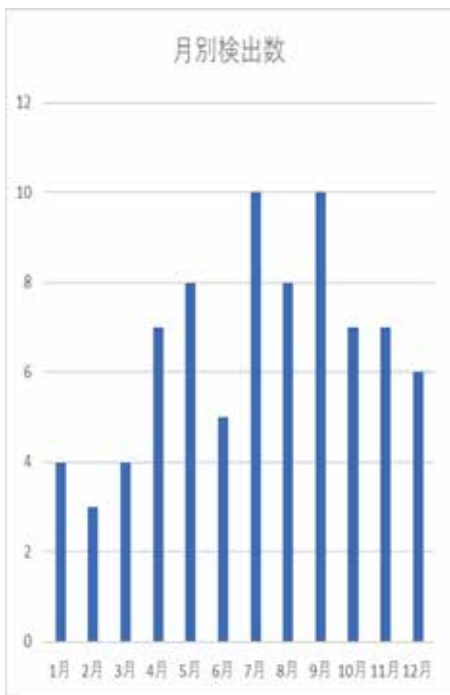
細菌検査統計報告

(*Staphylococcus saprophyticus* 検出状況)

当検査センターで受託した細菌検査における細菌検出状況を一部取り上げてご報告いたします。その他の検査材料の細菌検出状況、薬剤感受性情報、薬剤耐性菌検出状況、腸管病原菌検出状況は、当検査センターホームページに掲載しています。

<https://www.city.fukuoka.med.or.jp/kensa/kensa.html>

Staphylococcus saprophyticus は主に若年女性の単純性尿路感染症の原因菌となるグラム陽性球菌です。2023年1月～2023年12月に当センターから検出された *S. saprophyticus* の検出状況を下記に示します。



2023年 薬剤	<i>S. saprophyticus</i>		
	S 感受性	I 中間	R 耐性
ABPC	37.3	0	62.7
MPIPC	37.3	0	62.7
CEZ	37.3	0	62.7
CMZ	37.3	0	62.7
SBTPC	37.3	0	62.7
IPM	37.3	0	62.7
EM	62.7	0	37.3
CLDM	84.3	0	15.7
MINO	100	0	0
GM	100	0	0
LVFX	88.2	5.9	5.9
ST	100	0	0
FOM	0	0	100
VCM	100	0	0
TEIC	100	0	0
LZD	100	0	0
ABK	100	0	0

20代女性からの検出が最も多いですが、小児や高齢者、男性からも検出されています。またオキサシリン耐性株が6割を超えていますので、必要に応じて薬剤感受性試験をお勧めいたします。



「柳川よいとこ」

昨年の夏、私の娘が医療関連の免許取得を目指して日々勉強に明け暮れていたころ、2カ月間の病院実習が決まったため、近くの賃貸を探したり引っ越し準備をしたりと週末忙しくしていました。

実習先は柳川にある病院です。7月初旬の猛暑の中、家族総出で引っ越しを手伝い、生活用品や食料品の買出しなどでててこ舞いしていたお昼過ぎのこと、ふと周りを見渡すと・・・なんとも風情のある街ではありませんか。スポーツが盛んな高校の近くには川下りやうなぎの名店があり、もちろん柳の木も。そこかしこにあるお堀を覗くと小さなカメさんが優雅に泳いでいます。以前訪れた時はうなぎを食べることに集中していたのか、あまり周りを見ることもなかったのでしょうか。しかしこの時は都会の喧騒と違って風情ある街並みが目に飛び込んできて、とても心が豊かになる瞬間でした。一刻も早く我が家に戻りたいと言う娘とは対照的に福岡市から1時間あまりでこんな素敵な街に行けるなんて、移住するならここだなあと一人でニヤついていた。

すっかり柳川推しになった私は、2カ月の間に娘の心配と身の回りのお世話という理由をこじつけ、1泊2日の柳川満喫ツアーを3度も実行したのは言うまでもありません。柳川よいとこ皆様も満喫してみてください。 営業管理係 波多江 正朗

福岡市医師会臨床検査センター

〒814-0001 福岡市早良区百道浜一丁目6番9号

TEL 092-852-1506 FAX 092-852-1511

<https://www.city.fukuoka.med.or.jp/kensa/kensa.html>

E-mail : fma@city.fukuoka.med.or.jp

編集委員 田川 恭平 東田 和子 杉本 清美 田中 進一 高下 誠司 井手 明宏